

はじめに

帝国データバンク史料館は2007年4月、信用調査の重要性を広く認識していただくことを目的として開設した。以来多くのお客さまにご来館いただき、特別企画展や講演会を開催し、また定期刊行物『帝国データバンク史料館だより Muse』を季刊発行してきた。

本書は2012年より『Muse』の「別冊版」として刊行を始めた。第3弾となる『別冊 Muse 2014』は、「情報と資料を越える、渡る、広がる」をテーマとし、情報、資料、そして人が、海を渡って国境を越えて繋がっていくことの必要性、重要性、直面する課題について様々なジャンルの方々に語っていただいた。

情報が満ち溢れる現代社会。それだけに情報の質的分析、資料研究の重要性が指摘されている。情報化社会がどのような問題を抱えているのか——。資料、メディア、若者をキーワードに、多様で複合的で、グローバルな視点からのメッセージをお届けする。

2014年9月

帝国データバンク史料館

目次

はじめに

巻頭インタビュー 萱野志朗さん

わが国先住・少数民族の文化とところ……………6

特別論稿

記録は誰のものか、海に向こうの史料を訪ねて……………大島久幸 18

クローズアップ

情報と資料利用の在り方をいまに問う……………山本武利×田口嘉孝 26

大学と戦争 アーカイブズと学徒出陣の記憶を記録する活動……………都倉武之×後藤佳菜子 37

中国における資料保存・管理のこれまでとその成果……………王嵐×高津隆 47

Archives Essay

私のアーカイブズへの尽きない想い……………中臺綾子 58

たばこと塩の博物館 新たな出発をめざして……………鎮目良文 62

移転奮闘記・通信総合博物館から郵政博物館へ……………本間与之 66

異色対論

渡って、越えて、見て、触れて、感じて、学ぶことの意味……………丸井英明×町田小織 72

隠す、捨てる、作らない……………ローリー・アン・フリーマン×岩瀬達哉 86

Talk Session 白熱メッセージ 松崎裕子・江上敏哲・金甫榮・布施直人

海を渡り、国境を越えて、繋がることの意味と価値……………98

Muse Special Guest 李向罡さん

日中アーカイブズの架け橋として生きる……………128